

川名御霊神社

八柳 修之

川名の地蔵尊の横に村岡ふるさとマップ案内板がある。川名地区には川名御霊神社、神光寺、横穴古墳群、それに案内板にはないが川名清水谷戸がある。いずれもウォーキングの例会で訪れた所であるが、マイペースでみることは出来なかったので、じっくり見てみようというものである。



地蔵尊の先、豪邸 S 氏宅横から右に入る道がある。くねくねとした昔からの道、地元の人は通り町と呼んでおり 70~80m入ると高さは 3mほどの御霊神社の標柱が立っている。海軍中將東郷吉太郎謹書、昭和 15 年 9 月、建立氏子中とある。鳥居は紀元 2600 年建立とある。紀元 2600 年は西暦 1940 年（昭和 15 年）、神武天皇即位以来 2600 年、全国的に祝われたが、これを契機に日本は一層軍国の道を進んだのである。左側の標柱には新林公園から 1220m、神光寺 250m、横穴墳墓群 350m とある。その先の案内はないが川名清水谷戸である。御霊神社には社務所がないのか、御霊神社の御朱印、お守りは龍口明神社（鎌倉市腰越）で受けることができます。という案内板があった。龍口明神社との関係は調べたが分からなかった。御霊神社はほかに藤沢には宮前の御霊神社、羽鳥の御霊神社があるが、本社は鎌倉坂の下にある御霊神社である。別名、権五郎神社とも呼ばれ、社地の目の前を江ノ電が通り、トンネルから出てくる江ノ電とアジサイはマニアには絶好の撮影スポットある。

さて、本殿へはかなり厳しい石段を上らなければならない。そんなこともあってか、例会ではパスされている。川名のマンションに引越して来た当時、一度お参りしたことがあり、厳しいことは記憶していたが、これが最後と思い挑戦してみた。日頃のお散歩の効果があったのか、なんとか本殿に参拝することが出来た。本殿の左側には村岡七福神福祿寿の像があり、川名のマンションに下る道があった。石段下に川名御霊神社由来の碑が氏子中によって建てられていた祭神は早良親王（桓武天皇の同母弟、悲運の末に没し、のち崇道天皇と追号された）とのこと。村岡ゆかりの武将鎌倉権五郎影政（大庭御厨を開発した人物）を建久年間（1190~99）に合祀した。宮前御霊神社の分



社で、秋の例大祭には市指定文化財・川名屋台ばやしが演奏され、鎌倉権五郎の人形をのせた山車が出て賑わう。市民祭りにも出場するが、今年はコロナで中止されるようだ。



鎌倉権五郎のこと。安直に日本史広辞典（山川出版）によると、「生没不詳。平安後期の武将、桓武平氏の平影成の子、大庭氏、梶原氏の祖、父以来鎌倉を領有し、鎌倉氏を称する。長治年間相模国高座郡大庭御厨を開発し、1116年（承久4）頃、伊勢神宮に寄進。奥州後三年記によると、16歳のとき源義家に属して後三年の役に従軍し活躍。この合戦で右眼を射られたときの豪胆ぶりを示す逸話は有名である。

歌川国貞画 歌舞伎「暫く」に登場する鎌倉権五郎影政

完